

小堀桂一郎先生

同封のもの、御高著『鈴木貫太郎』ミネルヴァ書房日本評伝選より刊行されて直後、西暦二〇一六年に執筆した拙い書評です。

元来は、『比較文学研究』に掲載していただくべく寄稿したのですが、紙面の都合から遅延し、その後の事情で滞っていた、とのこと。編集部から先程いただいた連絡により、同誌への掲載は、刊行からすでに時間が経過しているため、学会として、掲載は見送ることにした。との判断に至ったようです。

このため、まことに不本意なたちにて恐縮至極ですが、原稿の状態で、お届け申し上げます。枚数の関係からして、本稿が活字になる可能性はなくなつたものと判断いたします。

その間、ほかにも玉稿「フランス革命—自由・平等・博愛」など拝受しながら、多忙にかまけ、ご返事が疎かになりました。あわせてお詫び申し上げます。ご健勝を祈りあげます。

令和四年二月二一日

稲賀繁美